

看護教育 第32巻 総目次

1991年1—13号

(表示は、題名：筆者名、号数、開始ページ数)

●特集

看護教育の大学・大学院化

シンポジウム「4年制大学における看護学教育」

国立大学医療技術短期大学部看護学科連絡協議会第16回総会より

看護教育の4年制大学化の必要性和阻害因子について：鈴木美恵子，3，135.

看護基礎教育大学化の必要性和教員育成について：長浦レイコ，3，137.

医学教育からみた看護学教育：上屋純，3，141.

医療科学の一分野としての看護学：東 雅，3，145.

行政の立場からみた4年制看護大学：大室律子，3，148.

シンポジウムを終えて：高木永子，3，156.

なぜ4年制大学なのか：三本福治郎，3，158.

看護学教育における博士課程の必要性——28年前の幻の大学院の誕生と消滅が意味するもの：杉森みどり，3，164.

看護教員の待遇改善に向けて

教員不足の背景をさぐる——あまりにも違う待遇の実態：西村千代子，4，197.

高等学校衛生看護科の教員のおかれている現状——埼玉県立常盤女子高等学校の場合：千田信子，4，201.

あまり恵まれたものではないが、冷遇されてもいない——3年制看護学校の場合：大沼れい子，4，206.

教員を育てるためのシステム——短期大学における助手の育成：原一寿/池田澄子，4，211.

看護大学における教員の役割と今後の展望：堀内成子，4，216.

女性教員のキャリア像と経済的待遇：守屋研二，4，221.

発表能力を育む教育の実践

教室におけるディベートの実際——看護教育に取り入れたい指導方法：川本信幹，5，262.

思考を深め表現能力を高めるゼミ——北里大学における入魂の模擬裁判：奥野善彦，5，269.

看護研究発表会における発表のしかたを指導して：開米八重子/道順るみ子/横堀良男/恩田和世/田口聡美，5，280.

看護と情報教育

看護情報学のカリキュラム：森山英佐子，6，326.

「看護過程」のCAI教材開発——看護教育CAI研究会：新道幸恵/山下香枝子/村中陽子/古橋洋子/山本捷子/藤村龍子，6，340.

医学文献検索法の授業展開：奥出麻理，6，353.

学生カンファレンスを効果的に

看護教育におけるカンファレンスの意義：小池妙子，7，390.

臨床指導者からみた学生カンファレンス：岐部恭子，7，397.

学生と共に歩むカンファレンスを——臨床実習におけるカンファレンスを主軸とした学習指導の展開：松村恵子，7，400.

臨床実習カンファレンスにおける教師の発言傾向：佐々木栄子/小池妙子，7，405.

効果的なカンファレンスを考える——観察者によるフィードバックの活用から学んだこと：成瀬悦子，7，414.

看護学生のこころの問題を探る

看護学生のメンタルヘルス——看護教育の特殊性と学生のストレス：東 雄司，8，454.

学生相談にみる現代学生像——最近の事例の特徴から：平野馨，8，459.

ゆとりのない専門学校の学生——自分の学生生活を振り返って感じる教員のジレンマ：水田真由美，8，464.

看護学生にセクシュアリティ教育を——女性としての多価的生き方の実現のために：高村寿子，8，468.

[アンケート調査]看護学生のストレスについて：鳴尾悦子/中澤則子/水田真由美/窪中ミワ子/山本径代/山本喜久子/堀畑かよ子/中野康子，8，474.

患者教育——教育技法を学ぶ

看護基礎教育における患者教育——組織的・系統的な展開をめざして：高橋みや子，9，518.

学生のための授業研究——マイクロティーチング導入の試み：藤岡完治，9，524.

“患者教育”の授業の一展開——小グループ学習で効果的に：田村綾子/南妙子，9，533.

教育とは何か——教師教育教材の開発の立場から：藤岡完治，9，537.

当校の新カリ対策，何をどう展開しているか

病理学の症候論的アプローチ——その具体的な授業展

開：橋本智子/能川ケイ/森下久美子/梶田初美/松居博子/寶毛良子/山崎千枝美，10，582.

ゆとりある基礎実習——臨床と講義の結びつきを大切に：沢田成子，10，590.

継続して行なう母性実習——1人の妊婦の外来，病棟，新生児訪問を受け持たせて：小林勝子/佐々木鈴子/岩内栄子/西山厚子/菊田美智子/興梠江里佳/早川美佐枝，10，598.

看護婦不足解消は教育現場の改革から

生徒を送り出す側からみた看護教育——安心して送り

出せる看護界を期待して：田口正男，11，646.

看護教育の抱える問題——学生を迎える側として看護教育の現場を振り返る：鹿島友義，11，653.

高校生に学校開放して感じた手応え：嶋田えみ子，11，659.

看護学生大いに語る——私たちの体験している看護教育：Thumbs up，11，663.

情報化時代の POS

第13回 POS 研究会報告[編集：POS 研究会]

特集にあたって：森 忠三，12，705.

【特別講演】

患者のための患者による POS：日野原重明，12，707.

【教育講演】

POS と臨床講義：森 忠三，12，717.

医学生に対する POS 教育：津田 司，12，721.

POS と情報処理：西尾利一，12，725.

ドクタープロブレムとナースプロブレム：中木高夫，12，731.

【ワークショップ】

初心者のための POS 演習：岩谷節子，12，737.

プロブレムのとりあげかた：三代美知子，12，742.

フローシートとその活用：福岡誠之，12，749.

継続ケアのための POS：羽白 清，12，754.

オーディット：三宅弥生，12，759.

【一般演題】

当院における POS 取り組みの課程：岡田早苗/飯島百合香/永田節子/今岡光代/児玉美幸/安田和子/藤田直美/板倉順子/石倉武子，12，762.

問題リストが作成できるまでの取り組み：手島慶子/宮武順子/藤里美子/西村祥子/辻畑博子，12，765.

緊急性の高い患者の問題リスト作成についての一考察：井東光枝/有和和子/藤原淳子/波田栄子，12，769.

POS による訪問看護記録の試み：野沢陽子/葛貫恵子/片山美智子，12，774.

術後の看護に反映される記録用紙の考案——POS を導入して：高野千江子/舟橋幸雄/白土みわこ/丸山富美子/菅原洋子，12，783.

看護情報システムの導入——周手術期看護過程の展

開：岩田春子・魚谷節子・三代美知子，12，789.

看護記録の改善を試みて——問題点と看護計画を中心に：山本由加里・長木雅子・藤井尚喜・石川尚美・川田やす子，12，795.

患者作成によるプログ्रेसノートの監査と評価——軽症高血圧症の薬物療法を中心にして：本田芳香/佐藤淳子/甲斐なる美/井上仁志/柳原美和/宮崎倫子/石清水由紀子/道場信孝/日野原重明，12，800.

医師に対する退院時オーディットの経験：宮本尚彦・水原 浩・大池ひとみ・関 賢一・岩田嘉行，12，805.

POS の現状と今後の課題——記録の監査を試みて：小川協子，12，809.

看護記録の現状と問題点——記載マニュアルに添ったオーディットを行なって：常盤明子/水沢公子/新橋節子/安城栄子/坂部和子/岡田共子/小芝すみ子/内藤とも子/大島文栄/篠崎友子/杉山圭子/豊田栄子/長 千郷/井原育子，12，813.

看護の質を評価する——精神科での PONR を通して：佐田フサ子，12，820.

オーディットから明らかになった病棟の看護診断の現状と課題：小長根恵美子/石垣ひで/安倍由美/庄司ひとみ/名取瑞恵/高橋久美/松田美由紀/嶋田玲子/千葉光江，12，825.

POS の院内格差を是正するための工夫——研修委員会活動を通して：中井須美子/本郷美代子/南 享子，12，828.

当院における POS 導入の経過と問題点：森脇美登里/水野陽子/平原元子/雨宮みち/倉岡圭子/丸山トシ子/栢田三枝子/支倉桂子/馬場隆子/藤原多鶴子，12，831.

ターミナルケア教育

医療従事者となる学生のためのターミナルケア教育：庄司進一，13，838.

ターミナルケアに関わる学生の心理的变化に関する研究——死を見送ることの大切さ：土屋八千代，13，846.

●新春随想，21 世紀の看護教育，私とのかかわり

学生，教師ともにゆとりの中での学習をめざして：早川かつ，1，5.

教育とは，待つこと，育てること，損なわないこと：本場富喜，1，9.

学生との人間的なふれあいをもった教員の育成を：伊藤曉子，1，13.

●特別論考

看護学校の英語入試問題について出題者の側から考える：横山昌子，2，106.

わが国における看護学の大学院博士課程への期待：平山朝子，10，604.

●調査・授業研究

基礎看護技術教育のあり方(その1)

看護技術の卒業前学習と卒業後体験に関する調査研究：宮崎和子、千田敏恵、1、19.

看護技術の実施ポイントに関する検討：倉田トシ子/桑野タイ子、1、29.

基礎看護技術教育のあり方(その2)

技術教育の課題と調査概要：川崎佳代子/桑野タイ子、2、70.

基礎看護技術：奥宮暁子、2、73.

成人看護技術：小野沢康子、2、79.

小児看護技術：北島靖子、2、85.

母性看護技術：渡部尚子、2、90.

臨床実習における学生の満足度と実習指導について：山口桂子、2、95.

看護基礎教育における技術教育の課題・文献検討：桑野タイ子/川崎佳代子、2、100.

看護婦課程での“精神衛生”の看護職者への有用性と“精神保健”の今後の課題——卒後追跡調査の報告：影山隆之/長尾節子/新城さつき、3、174.

健康への意識づけに新聞を活用して：三品照子、4、226.

看護技術の演習にモデルを使用することの意義：岡崎寿美子、5、286.

体験学習を中心としたコミュニケーション技術の授業展開：松本学、5、290.

ゆとりの受け止め方とその一考察：藤内美保、7、417.

看護学生の臨床実習前の不安について：岡部聡子/佐伯真理/小林伸子/森下節子/村山正子、11、668.

分娩看護実習後の学生の内省とその示唆するもの：山内葉月、13、852.

進学コースにおける基礎看護技術の指導工夫——「清潔」の実習に実験的研究を取り入れて：田口聡美、13、857.

看護教育関係者の医療技術者教育等に関する意見調査——国立私立の看護系短大および大学における教育と研究の調査研究——その自由回答の骨子要約：福崎哲、13、861.

セルフケア看護実習方法の一試案——障害自己受容過程における生活管理教育の関連性の検討：大童幹子、13、867.

●ケースレポート・実践報告

看護婦が患者の日常に関わることの意味についての一考察——1人のフィッシャー症候群の患者の体験した世界：萱間真美、7、422.

やる気のみられない学生へのかかわり——学習会での討論を活用して：古賀八重子/太石弘子/稲垣宣子/鈴木偉代/毛利浜子/新村如子/青山誘子/佐藤五月/新野温子/柴田俊一/小平朋江、8、481.

自分を磨く/シナリオ教室で学びマンガ作者となる

——客観視できる自分づくりで倍加する臨床の楽しさ：加藤光宝、9、544.

●私の臨床実習指導

実習意欲を引き出すための環境について：藤本恵美子、1、42.

終末期患者の看護——苦悩する学生とともに人間の生きることの意味を求めて：斎藤一江/森下妙子、4、230.

患者に対する「共感」を目指した1日実習の試み：関屋スミ子、5、298.

学生の思考過程を明確にし、気づきを深める実習指導のあり方：島田久代、10、619.

●EXTRA LECTURE

マザーテレサのもとへ、学生のボランティアの旅：関屋スミ子、1、50.

偉大な統計学者、ナイチンゲール——衛生統計学に示した業績を見る：多尾清子、2、116.

医療と経済：新野幸次郎、4、242.

国際感覚の涵養を：須藤勲子、6、362.

公害の原点としての水俣病：藤野紘、8、487.

芝居をみる楽しみ、演ずる楽しさ：中山浄、9、554.

学生の看護事故の法的責任について：木下健治、11、682.

構造学習とは：吉谷須磨子、13、882.

●NURSING EYE

思春期の性の援助について思うこと：西浜早苗、1、2.

私は何故、看護学校を退めたのか：鈴里倫、2、66.

ホスピスナースにはユーモアセンスを——米国ホスピス研修旅行に参加して：永田希和子、3、130.

6か月間の看護教員養成講習会を終えて——私の看護が見えてきた：加藤祐子、4、194.

その場その時の判断力を育てるために：古城幸子、5、258.

戦争罹災者の国際救援活動に参加して——たかが6か月、されど6か月：伊藤明子、6、322.

看護教員の人材確保の具体策を——高校衛看の専攻科設置に携わって：小田部光明、7、386.

看護学実習に関する研究のプロセスを通して：舟島なをみ、8、450.

新たな一歩を踏みだして——高校衛看から短大に移って思うこと：飯村節子、9、514.

「単身赴任で残された妻の見解と体験」を卒論テーマにして：山下美根子、10、578.

教員は学生のストレス源になっていませんか：土屋八千代、11、642.

学生の感性は無敵大！——学生の実習におけるつぶやきの記録より：青山誘子、13、836.

●連載/ことば：都留春夫

なぜ、私が、いま、ここに、1, 1.
看・護・教・育, 2, 65.
看・護・教・育(2), 3, 129.
学習, 4, 193.
いき・いきる・いのち, 5, 257.
あそ(遊)び, 6, 321.
すこ(健)やかなときもや(病)むときも, 7, 385.
生と死, 8, 449.
クオリティ・オブ・ライフ, 9, 513.
カウンセリング, 10, 577.
共感, 11, 641.
みとり, 13, 835.

●連載/往復書簡、東京と小樽を結んで：久保成子/市立小樽病院高等看護学院教務

第1信 ハムレットと看護教育, 1, 46.
第2信 18歳, 今, 2, 112.
第3信 [内的な死]と自分発見ということ, 3, 180.
第4信 普通感覚, 4, 238.
第5信 体験と人間であることと, 5, 304.
第6信 初めての出逢い, 6, 358.
第7信 文化的事実としての人間, 7, 428.
第8信 その人の人生をみつめて, 8, 494.
第9信 日本人の身体感覚と看護, 9, 550.
第10信 失いかけた心, 10, 624.
第11信 [〈知〉の営為]を越えるもののために, 11, 678.
第12信 熱き心に支えられて, 13, 878.

●連載/看護教育における授業設計：佐藤みつ子/宇佐美千恵子/青木康子

- ① 看護教員養成課程と授業設計, 4, 246.
- ② 指導案に関する基本的事項, 5, 308.
- ③ 講義学習指導案作成の実際, 6, 370.
- ④ 講義学習指導案作成の実際2, 7, 432.
- ⑤ 講義学習指導案作成の実際3, 8, 498.
- ⑥ 講義学習指導案作成の実際4, 9, 560.
- ⑦ 「講義」模擬授業の実際と評価, 10, 628.
- ⑧ 校内実習指導案作成の実際, 11, 688.
- ⑨ 「校内実習」の模擬授業の実際と評価, 13, 889.

●連載/明治期の家政書にみる看護法：中村美知子/吉川龍子

3. 本格的家政書にみる看護法, 1, 36.

●連載/東京大学医学部衛生看護学科はなぜなくなったのか：見藤隆子

1. 衛生看護学科誕生のいきさつ, 10, 614.
2. 保健学科への変身——なぜ、だれの手によってなされたか, 11, 674.
3. 「改称」がなぜ「解消」と理解されたのか——衛生看

護学科は保健学科と名称変更されただけだった, 13, 874.

●CROSSROADS

21世紀にあと10年——看護教員の資格の確立を：松尾光恵, 3, 190.
盲導犬ボーラちゃんのお母さんは英語の先生：浅田昌古, 3, 191.
学生から学ぶもの：土屋八千代, 7, 446.
春の遠足：宮寄真知子, 7, 447.
感謝状：善塔みや子, 9, 574.
白衣を脱いで：水野瑤子, 9, 574.
きゅうり：浅田昌古, 9, 575.

●モニター通信

「看護教育」を尻叩かれて読もうと応募, 坂井恵子, 13, 895

●NEWS PICK UP：Thumbs up (聖路加看護大学同好会)

1, 62, 2, 126, 3, 188, 4, 254, 5, 318, 6, 382, 7, 444, 8, 510, 9, 572, 10, 638, 11, 702, 13, 896.

●JNEニュース

看護界のリーダー育成に一役ほか, 8, 467.

●BOOKS：書評

自立と共生を語る(大江健三郎他, 三輪書店, 1990)：評者・小笠原望, 1, 57.
女たちの約束 M・T・ツルーと日本最初の看護婦学校(亀山美知子, 人文書院, 1990)：評者・加藤光宝, 2, 123.
看護モデルの理解 分析と評価(Fawcett, J., 小島操子監訳, 医学書院, 1990)：評者・氏家幸子, 2, 124.
面接のプログラム学習(D. エバンス他, 杉本照子監訳, 相川書房, 1990)：評者・杉野元子, 4, 252.
ナースのためのパーソナルコンピュータ入門(青木和夫他, 医学書院, 1990)：評者・村嶋幸代, 6, 357.
イラストでみる手術体位の基本(一柳那男訳, 医学書院, 1990)：評者・能川恭子, 7, 438.
ふれあいの医療ガイド(堀越栄子他, 学陽書房, 1991)：評者・堤年子, 7, 439.
人間科学としての看護学序説(高橋照子, 医学書院, 1991)：評者・花田妙子, 8, 508.
Take it easy! 臨床実習 看護婦さんってステキ!(加藤光宝・池川玲子画, 中央法規出版, 1991)：評者・佐藤律子, 9, 548.
それいけフレッシュナース プロへのチェックポイント 25(勝田仁美他・藤田悌子画, 医学書院, 1991)：評者・鼻野木晴美, 9, 549.
看護過程ハンドブック(Hickey, P. W., 兼松百合子他

訳, 医学書院, 1991): 評者・江本愛子, 10, 613.
看護一生涯られる世界の実践知(池川清子, ゆみる出版, 1991): 評者・永見勇, 10, 635.
統計学者としてのナイチンゲール(多尾清子, 医学書院, 1991): 評者・長門谷洋治, 11, 700.
日本人 いのちと健康の歴史(全5巻)(加藤文三他, 汐文社, 1991): 評者・岩本幸弓, 11, 701.
セクシュアリティ 看護過程からのアプローチ(Poorman, S. G., 川野雅資監訳, 医学書院, 1991): 評者・藤田和夫, 13, 894.

●BOOKS: 海外雑誌 (Journal of Nursing Education) 紹介

学生の意思決定能力を促進する教育——JNE 29 巻 4 号から 5 号の途中までの概要: 安酸史子, 1, 58.
新たな教育方法の模索——JNE 29 巻 5 号後半から 6 号の概要: グレック美鈴, 3, 184.
米国におけるカリキュラム革命——JNE 29 巻 7 号から 8 号の途中までの概要: 安酸史子, 5, 314.
カリキュラム評価に関する研究——JNE 29 巻 8 号後半から 9 号の概要: グレック美鈴, 7, 440.
看護教師の認識に関する研究——JNE 30 巻 1 号から 2 号の途中までの概要: 安酸史子, 9, 568.
看護学教育における教師を対象とした研究——JNE 30 巻 2 号後半から 3 号の概要: グレック美鈴, 11, 696.

●BOOKS: 海外文献(海外文献にみる看護教育学研究)

Hardy, M. A.: The American Nurse Association Influence on Federal Funding for Nursing Education, 1941-1984, Nursing Research 36(1), 1987, pp.31-35./Leddy, S. & Pepper, J. M.: The Professional Nurse as Change Agent, Conceptual Bases of Professional Nursing, Chapter 15, J. B. Lippin-

cot Company, 1985, pp.265-281./Talarczyk, G. & Milbrant, D.: A Collaborative Effort to Facilitate Role Transition from Student to Registered Nurse Practitioner, Nursing Management 19(2), 1988, pp.30-32. : 評者・太田澄恵, 4, 250.

Strategies for Ensuring a Successful Consultation, Gaye W. Poteet, RN, EdD, and Linda C. Hodges, RN, EdD, Nurse Educator, Vol.12, No. 5, pp.25-28, 1987./Educational Communication and Technology Journal, Criteria for Assessing the Trustworthiness of Naturalistic Inquiries, Egon G. Guba, Vol.29, No. 2, pp.75-91, 1981./Learning Styles Basis for Creative Teaching and Learning, Joan Gerity, RN, Med, Nurse Educator, March-April, pp.12-16, 1985. : 評者・安斎由貴子, 6, 380.

On Redefining the Baccalaureate Degree, Elizabeth Clleman, PhD. NURSING & HEALTH CARE, April, pp.193-196, 1986./Understanding the Academic Role A Handbook for New Faculty 4. Faculty Roles in Higher Education: Teaching, Service, and Scholarship, Janet Nielson Natapoff, EdD, RN, and Elisabeth A. Pennington, EdD, RN, National League for Nursing, 10, pp.31-47, 1986. : 評者・安斎由貴子, 8, 506.

Grier, M. R.: Decision Making about Patient Care, Nursing Research 25(2), 1976, pp.105-110./Kramer, M.: Role Conception of Baccalaureate Nurses and Success in Hospital Nursing, Nursing Research, 19(5), 1970, pp.428-439. : 評者・太田澄恵, 10, 636.

●資料

都道府県庁看護係・厚生省地方医務局・看護教員養成機関一覧, 2, 109.

統計学者としての ナイチンゲール

多尾清子

藍野学院短期大学講師

A5 頁142 図21 写真26 1991
定価1,854円 円300 医学書院

ナイチンゲールが統計学者だった!? クリミヤ戦争で、スクタリの陸軍病院に38人の看護婦を連れて不眠不休で傷病兵の看護にあたったナイチンゲール。そのスクタリの病院で当時40%もの死亡率を、わずか1か月後には2%にしたナイチンゲール。この驚異的な数字は、統計学的に明らかにされた問題を解決した結果だったのです。

今まで知られることのなかった統計学者としてのナイチンゲールを、情熱的に現代に蘇らせたのが本書。